

小中学生の保護者の皆様へ ご家庭で子どもと向き合うヒントをお届けします。

「思春期の先を信じる向き合いを」

ファミリアス 代表 村田あゆみ

◆オセロも裏を返せば白が出る

2歳児のイヤイヤ期に始まり、小1の壁、9歳の危機、そして思春期。子育てって苦勞の連続なのかしらとメディアの情報を見るたびに思います。どんなときでも愛おしいわが子に変わりはないはずなのに、「子育て暗黒期だぁ」なんて思う日もありますよね。

親にとっては生意気で憤慨しそうになる態度の裏側には、子どもの葛藤や成長しようとする姿があるのです。



◆戸惑いの時期に適度な距離と寄り添いを

思春期は、心と身体が大きく変化する、大人への遷り変わりの時期です。子どもの心は、それまで一体だった親との絆を断ち切って自立へと踏み出すのです。自分の部屋を欲しがる、一人で出かける、隠しごとをする。そんな形でもう自分は親から離れると表明しているのです。一方で、身体の変化は大人が思うより大きな戸惑いを子どもたちに与えています。軽やかだった自分の身体はいつの間にか重たくてすぐに疲れを感じます。伝えたいことはあるのに、自分の思いを表現する言葉が見つけれず話すのをやめてしまうこともよくあります。

「だるい」「めんどくさい」「もういい」は思春期の三大ワード。その裏には、心身の変化に追いつこうとする子どもたちのがんばりが隠れています。変化への戸惑いや照れくさが反発という形で現れます。そんな記憶を、あなたももっていませんか？

思春期を表すもう一つのキーワードは「揺れと接触」。自立は不安も伴います。「さっきまでのご機嫌モードはどこへ行ったの？」とびっくりするくらい態度が急変することもよくあります。不安定な心はそのまま激しい揺れとなって外に表現されるのです。一方で幼児返りかなと思うくらいにスキンシップを求めたり、意味もなく親の周りをうろうろしたりする姿もよく見られます。そんな時はあれこれ聞きたくなくなる気持ちはぐっとがまん(笑)！同じ空間にすることが思春期の子どもにとってのスキンシップ。安心すればふらっとまた自分の居場所に戻っていくものです。

◆子どもは必ず成長します

こんなことを頭の片すみに置いておくと、あれっという場面に出くわしても「それでこそ思春期！」と顔がにやけてしまうはず。もちろん、時には激しくぶつかることもあるでしょうし、だめなことには頑として譲れない姿勢をもつことも大切です。

しかし、どんな時でも信じていてほしいのは、子どもたちにとって今この時の葛藤が未来の成長の礎だということです。

長年高校教員をしてきて、たくさん子どもたちと出会いました。思春期の激しい揺れの中にいる生徒の姿には、時に圧倒されることもありましたが、ですが、成人し、働いたり親になったりしている姿にかつての激しさはありません。どの子もみな、それぞれの揺れを経て大人になっています。その後ろには、時には激しくぶつかり、時にはそっと手を差し伸べて支え、子の成長を信じ続けた保護者の姿が必ずあるのです。

思春期の先には、心を通して結ばれた新しい親子関係が築かれていきます。子どもでも大人でもない揺れ動く思春期時の間は大変なこともありますが、子離れ親離れの第一段階です。

どうぞこの貴重な思春期の限られた時間を、豊かで幸せな親子の新しい絆を作る土台の時期としてお過ごしください。

